

会 派 代 表 質 問 通 告 書

令和 7 年 8 月 2 6 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

会 派 名 市民クラブ すばる

高島市議会議員 8 番 高木 広和

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	令和7年度・8年度予算・今後の財政見通しについて
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	<p>3月議会で提案された当初予算（骨格予算）そして6月議会で提案された補正予算第一号（政策予算）を合わせて令和7年度当初予算というかたちになったと認識しています。</p> <p>その当初予算とされる総額は約328億円と前年度より7億円低い予算額となっていますが、財政調整基金の繰り入れは6年度当初予算より約7千万円多い、約18億円の繰入金となっています。市債発行額は約24億円、令和6年度当初は約45億円のうち合併特例債が約33億円となっていました。令和7年度からは合併特例債の発行も出来ない中、緊急自然災害防止対策事業債や緊急・防災減災事業債、過疎対策事業債など市に有利な起債を考えていただいた予</p>

算と見受けられます。

3月議会の市長の答弁では、今年度中に長期財政計画の改訂、また、これまでの予算規模を今後も継続した場合は、基金の取り崩しや起債の増加によって、数年後には極めて厳しい財政状況に陥ることが予想されると答弁をいただきました。7年度の当初予算を組まれましたが、市長が初めて組まれた当初予算について、財政的な見解をお聞きいたします。

合併特例債の最終年度となった令和6年度の決算額は、実質、過去最大級の決算額になると思いますが、令和6年度末の財政調整基金、減債基金に特定目的基金を加えた基金残高は、約8億円減少し、本年度、更に約14億円減少し、令和5年度末で152億円ありました基金残高は令和7年度末で約130億円になる見込みとなっており、これまで毎年、減少してきた市債残高につきましても、令和6年度は約4億8千万円増加し、令和7年度においても約5億3千万円の増加と思われます。また、実質公債費率や将来負担比率などの健全化判断比率は令和6年度におきましても改善しているものの、今後、数値の悪化が懸念される所であり、自治体の財政構造の弾力性を判断するための指標である、経常収支比率につきましても、令和6年度は96.7%となり0.5ポイント上昇しており財政の硬直化が進んでいるのではないかと懸念しています。今後も人件費や扶助費などの義務的経費の増加に加えて、物価高騰による影響や公共施設の維持費などが必要となり、厳しい財政運営を予想します。このよ

うな中で、令和8年度に向けた予算編成をされることとなりますが、新年度の予算編成をどのように進めていかれるのか、また長期財政計画の改訂の見通しについて、お聞きします。